



Gin

Deep Sessions

JAPAN IMPORT SYSTEM CO.,LTD.



Japan
Import
System

ジンについて そのルーツと歴史

ジンはウイスキーやブランデーと同じ、蒸留酒に分類されます。大麦やライ麦などの穀物を原料とし、糖化・発酵・蒸留などのプロセスを経て、最終的にジュニパー・ベリー等のボタニカル類で香味成分が加えられています。

現在ではカクテルベースとして世界各国で飲まれています。その発祥は英国ではなくオランダと言われています。

元々オランダでは中世より蒸留酒の生産が行われておりましたが、オランダ・ライデン大学の教授によって医療用の薬としてジンが開発され、その後オランダ国内から北ヨーロッパを中心に広がりました。

その後ジンは、英国ロンドンにて爆発的な人気を獲得しますが、その経過には諸説あるようです。16世紀半ばにオランダが戦場となったことにより、英国等の周辺国から多くの兵士が投入され、彼らはオランダでジンに慣れ親しみました。

撤退と共に母国に持ち帰ったことで英国での広がりを見せた、というのが一説です。

17世紀に英国で飲まれていたのは、ほぼ全て医療用としてのジンでした。

しかし18世紀に入り、徐々に嗜好品として飲まれるようになります。

ロンドンのような大都市の、特に労働者層に広く普及し、1689年から50年足らずの間に、生産量は20倍以上と爆発的に増えました。

これは全ての成人したロンドン市民が、年間63リットルを消費した計算になります。

この数字はあくまでも公的機関に申請された量であるので、密造分を考慮すると当時の生産量・消費量は莫大なものであったのではないのでしょうか。

しかし消費量の増加と共に、他の酒類と同様、ジンにも重税がかけられるようになります。あまりにも非現実的な重税によって、価格の高騰とともにジンの消費量も落ちていきました。

生産者・消費者ともに厳しい立場に追いやられました。豪華な形状のボトルでジンを販売することや、ジンを販売するパブが増えた事により、それまでの「安酒」としてのイメージから脱却し、ジンは一つの飲料として確固たる地位を築き上げます。

その後1832年の連続式蒸留器の発明によって純度の高い蒸留が可能となり、雑味を隠すための甘みを減らすことが可能となりました。

後にロンドン・ドライと呼ばれるようになる、甘みが全くないスタイルもこの頃に確立されたと言われています。

ついに嗜好品としてのジンの市場が成熟した結果、1850年に英国議会は輸出用のジンに対して減税するという画期的な決定を下します。

これにより、伝統的な英国のジンは国外へもその扉を開かれたのです。

その後アメリカに渡ったジンは、カクテルベースとして重宝され、世界的な蒸留酒として日本でも広く認知されるようになりました。

正統 究極

Premium
6
Style



ジャパンインポートシステムが厳選した、用途に応じて使い分けつ事が出来る本格的なジン6種です。

キングスバリー ビクトリアンバット・ジン
Kingsbury Victorian Vat Gin

製法も味わいも、そして琥珀色の輝きも昔のままに

ロンドン・ドライの概念を覆した商品として、プロフェッショナルなお客様に絶大な人気を誇る「ビクトリアンバット」ジン、その最大の特徴は「ダブル・ジュニパー」と「琥珀色」にあります。

・ダブル・ジュニパー

通常市販されているジンの2倍以上ものジュニパーを用いて作られています。現在のジンはシトラスフレーバーが主流ですが、このジンは強烈なジュニパーとスパイシーな香りが特徴的で、ビターかつドライな個性が際立っています。

・琥珀色

19世紀ビクトリア朝の当時、ジンは樽に詰められ船で世界中に運ばれていました。

この商品も樽で熟成されるため、淡い琥珀色がついています。ドライな味わいの中に柔らかさが感じられますが、樽香は付いていない為、カクテルの香りを壊すことはありません。

ロンドンで蒸留されなくても、法的には「ロンドン・ドライ」を名乗ることが出来ます。

しかしビクトリアンバットは、正真正銘ロンドンで蒸留された本物の「ロンドン・ドライ」。

そしてこのビクトリアンバットなら、キニーネが入っていない日本のトニックウォーターでも、本場英国のジントニックを再現することが出来ます。

ジンが心の底から本当にお好きな方へ、JISはこのビクトリアンバットをおすすめ致します。



Victorian Vat Gin

700ml / 47%
参考小売価格 ¥2,800
(税別)

そして2008年には、更に進化を遂げた世界初の「シングルカスク」のビクトリアンバットが発売されました。

ジンの世界では通常考えられない「シングルカスク」という概念ですが、この商品は樽で熟成されているため、このような商品化が可能となりました。ラベル右下に小さく、カスクナンバーも表記されています。

加えて通常のビクトリアンバットのアルコール度数が47%であるのに対し、この「シングルカスク」は、より高いアルコール度数（※）で商品化されているため、ビクトリアンバット最大の特徴の一つであるダブル・ジュニパーが更に強く感じられます。

「シングルカスク（=1樽）」ですので入荷本数が600本程度の限定商品となっておりますが、今後も不定期にリリースされるようですので、是非一度お試しください。

※ アルコール度数はカスクNo.により異なります。



Victorian Vat Gin (Red)

700ml
参考小売価格 ¥3,500
(税別)

※アルコール度数はカスクナンバーにより異なります。

ピムリコジン

Pimlico Gin

力強さに溢れ、全ての要素が凝縮された“ハイブーフ”ジン

現在日本へ輸入されている様々なロンドン・ドライの中で、最もアルコール度数が高い商品の一つに挙げられるのが、このピムリコ。
アルコール度数57%で商品化されています。

その最大の特徴であるアルコール度数の高さによって、香りや味わいなどが全ての要素が濃厚で、凝縮感に溢れたジンです。
プロのバーテンダーの方を中心に、長い間変わらぬご支持を頂いております。

かの有名なロンドン・ドライ、ビーフォーターを生み出したのはジェームス・パローですが、その直系の曾孫にあたるクリストファー・ヘイマンが経営する「ヘイマン・ディスティラーズ社」が、このクラシック・スタイルのピムリコを作り上げています。

ちなみに「ピムリコ」という銘柄ですが、これはロンドンにある古い町の名前に由来しているようです。

Pimlico Gin

700ml / 57%
参考小売価格 ¥3,800
(税別)



ブルームスバリー オレンジフレーバー & レモンフレーバー ジン

Bloomsbury Orange & Lemon Flavored

小規模生産で品質にこだわった、果実味溢れるフレーバード・ジン

英国ロンドンの歴史ある老舗ディーラー、ブルームスバリー社からリリースされるオレンジとレモン、2種類のフレーバード・ジン。
ロンドンのブルームスバリー地区は、そこで生まれたビーフォーターを始め「ロンドン・ドライ発祥の地」とされています。

ブルームスバリー社は小規模で品質に大変こだわっており、この2商品は受注生産でしか作られておりません。

プロのバーテンダーの皆様にオリジナル・カクテルのベースとしてお使い頂くのはもちろん、ただソーダやトニックウォーターで割って頂くだけで、普段のジンベースのカクテルとは違った楽しみが広がります。

Bloomsbury Orange & Lemon Flavored

700ml / 45%
参考小売価格 ¥2,500
(税別)





(株) ジャパンインポートシステム

<http://www.jisys.co.jp/> E-mail:sp-sl@jisys.co.jp

※ 商品のお問い合わせに関しては、上記ご連絡先までお願い致します。

※ 特に内容の深い生産者のセミナーや、古酒等のスペシャル・テイスティングを株式会社ジャパンインポートシステムでは“DEEP SESSIONS”（ディープ・セッション）と題しています。
ブコの皆様はもちろん、深い知識と興味をお持ちの一般のお客様に対しても、本物のハードリカーやその生産者と出会える機会をご提供致します。